

冬季H3需要における電源線N-2故障発生時の需給状況

(参考) 冬季H3需要における電源線N-2故障発生時の需給状況

- 電源線N-2故障による電源脱落下後の状況を、今冬H3需給バランスの供給予備率がN-2故障時に最小となる月に対して事前に確認した。
- 北海道、東京、関西、中国、沖縄エリアでは、エリア内で確保された予備力で供給予備率3%が確保可能であった。東北、中部、北陸、四国、九州エリアでは、他エリアとの取引等の追加的な需給対策により供給予備率3%が確保可能であった。
- H3需要を上回る高需要発生と稀頻度リスクであるN-2故障による供給力減少が同時に発現した場合等には、本機関による逼迫時の指示を行うまでの追加的な需給対策で対応することとなるが、対策が後手にならないよう、広域機関と一般送配電事業者は各エリアの需給状況の把握とリスク発現の予見に努める。

供給力減少リスク要因と、供給予備力(H3)との比較

(送電端,万kW,%)

エリア		北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	沖縄
供給予備率最小月(N-2故障発生時)		2月	3月	2月	2月	12月	2月	3月	12月	12月	1月
供給予備力 ^{※1}		83	150	685	161	46	496	180	48	150	59
供給予備率		16.6%	12.1%	14.5%	7.1%	9.8%	21.4%	20.2%	10.5%	10.9%	56.4%
電源線N-2故障(または電源N-1)による最大脱落量		▲ 67	▲ 209	▲ 485	▲ 387	▲ 111	▲ 193	▲ 124	▲ 94	▲ 169	▲ 24
対策内容 ※2	電源 I' (供給力増)	—	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)	0 (0)	—
	電源 I' (DR:需要減)	—	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)	7 (7)	—
	火力増出力運転	—	10 (10)	—	6 (6)	3 (3)	—	—	4 (4)	9 (9)	—
	エリア間取引等 ^{※3}	—	86 (313)	—	288 (335)	70 (70)	—	—	56 (324)	52 (266)	—
	本機関による逼迫時の指示	—	—	—	—	7 (70)	—	—	—	—	—
	契約に基づく需要抑制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策後	供給予備力	16	37	200	68	14	303	56	14	41	34
	供給予備率	3.3%	3.0%	4.2%	3.0%	3.0%	13.1%	6.3%	3.0%	3.0%	32.9%

※1 電源 I'、火力増出力運転及びエリア間取引は含んでいない(電源 I'のうち、厳気象時等以外にも安定的に見込めるものは計上)。

※2 ()内は最大対策量。『—』は、供給予備率3%を確保できるため、対策不要箇所。

※3 エリアの小売供給力と発電事業者の発電余力の合計からH1需要を超過した部分(電源 I'および火力増出力分は控除)かつ連系線空容量範囲内。